



卓球は天候に左右されることなく、限られたスペースで楽しむことができるスポーツです。町が開催した教室をきっかけにスタートした『多古子供卓球クラブ』は、今年で活動5年目を迎えます。当初は40人近くいたメンバーも、現在は10名程度に減ってしまいましたが、毎週楽しく活動しています。

体育館をのぞいてみると、このクラブを卒業し巣立っていった高校生や中学生の姿も一。誰に言われるわけでもなく各々が卓球台を出し、自主練習を開始します。みんなが集まった頃合を見計らって、ランニングと念入りな準備体操。ステップやスマッシュ、ラケットを持つ手を意識させる動きを取り入れたイメージトレーニングも行います。体操が終わると卓球台での打ち込みへ。まず、速度や強さ、球筋などを自由に設定できる“自動球出し機械”を使い、一人ずつラケットの振り方や体の使い方を反復練習します。打ち損じた球は、見ている人がみんなで拾い集める一。このクラブの大切な約束のひとつです。続いて何人かに分かれ、大人や中学生を相手に実践練習へ。交代しながら、サーブやスマッシュ

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第33回

卓球クラブ

『多古子供卓球クラブ』

- ①活動歴 5年
- ②年齢層 小学2～6年生の男女
- ③活動場所 町民体育館
- ④活動時間 毎週火曜日
19:00～21:00
- ⑤代表者 土屋重光(つちやしげみつ)
- ⑥連絡先 ☎76-7012

をラリーの中で練習していきます。休憩を挟み、最後は子ども同士でゲーム形式の練習です。始めはなかなか続かなかつたラリーも、だんだん長く続くようになり、スマッシュを決めると歓声が上がります。1球1球を見詰める子どもたちの真剣な瞳が、1番輝くときです。

代表でありコーチも務める土屋さんの

指導はまさに“熱血”。「そうじゃないよ!!」と駆け寄り、何度でも繰り返し指導します。話を聞く態度やみんなで協力することなど、人間としてきちんとすべきことには特に厳しく、大きな声が出ることも一。そんな土屋さんのことを「全然怖くないよ」と、子どもたちは話します。卓球を通して、学校や学年の壁を越えた友達との交流を楽しむメンバーは、毎週火曜日の夜を心待ちにしています。

卓球の楽しさを「ラリーが続いたり、スマッシュが決まったりしたとき!!」と話す子どもたち。昨年からはスポーツ少年団として活動し、県の大会にも初めて参加しました。今年は各地区の大会にも、どんどん挑戦していく予定です。一緒に卓球を楽しんでくれる、大人の参加も大歓迎!! 皆さんも一度、遊びに来てみませんか?



編集 後記

★17年ぶりに、成田駅まで路線バスに乗りました。芝山千代田駅など、以前なかったバス停も通りますが、ほとんどが当時の路線のまま。見慣れたはずの景色も何だか懐かしく感じ「そういえば最後にバスへ乗ったあの日も、ず〜と窓の外を眺めていたなあ」と思い出しました★生来不精なため、多摩動物公園近くの学校まで、自宅から通うのは到底無理な話。そんな訳で大学4年の1月まで、東京に部屋を借りて住んでいた私。お盆や正月の帰省時には、多古と成田の行き来は路線バスを何度も利用しましたが、車窓の景色には何の興味も感じませんでした。そんな私が：★17年前、バスに乗った最後の日、大学の卒業式に出席するため、東京へ向かっていました。学生時代が終わることに、途方もない寂しさを感じ「学校までの景色すべてを目に焼き付けよう」と考えたあの日。今まで見落としていた何かが、見えたような気がしました★春は卒業の季節。柄にもなく、感傷的な気分にとっぴり浸ったのでした。

★同じ部署へ配属になったことがきっかけで、仲良くしている職場の友人が二人。ランチや買い物、悩みや夫の愚痴etc. 親交を深めて早15年★血縁関係のない三人ですが、二人は頻りに私と間違えられます。一人は私よりちよつと!?背が高いのですが、実の兄が妹と間違えたことも! (かなり目が悪いのも要因か?)★もう一人は、背格好や髪型、メガネが似ているので、職場内はもろろんのこと「今日はお疲れ様でしたと、他の小学校の先生からあいさつされたら、〇〇ちゃん今日来たよ」と、お店のおばちゃんに私の娘の名前を言われたり。最初は訂正していたものの、この頃は面倒になり、すつかり私に成りすまして対応、復命してくれています★そんな三人で、今年も年度末恒例の人間ドックへ。検査項目の中で、お互い気掛かりなのはやっぱり体重(一人は身長か)。だからって、「うふっ♥道連れよ」と、おまんじゅうを差し入れるのはやめてもらいたいものです。